



# 新型コロナウイルス感染症と



# SDGs

使用言語 / 日本語

オンライン シンポジウム

「COVID-19 が低炭素エネルギー社会への転換に及ぼす影響」

2021 5/26 [水] 15:00-17:30 [参加費] 無料

15:00-15:10 開会挨拶・趣旨説明

16:00-17:00 討論者による報告とリプライ (15分×4)

15:10-15:50 講演：Andrew Chapman

17:00-17:30 総合討論



講演者 | **Andrew Chapman** アンドリュー チャップマン

九州大学 カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所 マルチスケール構造科学研究部門 准教授  
京都大学大学院エネルギー科学研究科博士課程修了。オーストラリア、クイーンズランド州政府クリーンエネルギー省、公共事業省上級政策役員、九州大学カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所エネルギーアナリシス研究部門助教を経て、現職。低炭素エネルギーシステムへの移行に伴う社会的公平性の可視化及び定量化に関する研究を進めており、エネルギー政策の持続可能性評価フレームワーク (Energy Policy Sustainability Evaluation Framework) を開発した。九州大学経済学部ではエネルギー経済学の講義を担当している。近著に「Chapman et al. (2019) Multinational life satisfaction, perceived inequality and energy affordability. Nature Sustainability」がある。

[参照サイト] 「公平な」低炭素社会実現への道のり

<https://wpi-forum.jsps.go.jp/research/vol8-1/> ▶



討論者

宮本 一夫 九州大学  
人文科学研究院 教授

平山 賢太郎 九州大学  
法学研究院 准教授

李 学成 九州大学  
人間環境学研究院 助教

八木 信一 九州大学  
経済学研究院 教授

司会

藤井 秀道  
九州大学 経済学研究院 准教授

2015年9月に国連において社会・環境・経済分野における課題に対して17の目標と169のターゲットで構成される持続可能な開発目標 (SDGs) が採択されました。SDGsの推進を目指し、政府、企業、NGOなど様々な主体が積極的に課題解決に向けた取り組みを行う中で、九州大学においても自然科学分野及び人文社会科学分野において精力的に研究が進められています。

日本学術会議ではSDGs推進に向けた研究体制として「SDGsの目標達成と個別の課題の解決には相互に複雑な関係があり、この問題に取り組むためには多くの学術領域の協働と社会との強い連携が不可欠となる」と指摘して

います。この指摘を踏まえれば、SDGs推進に向けた研究には幅広い分野の研究者による学際的な研究体制が必要であり、その体制をいかにして構築するかが重要となります。

こうした背景の下、九州大学人社系協働研究・教育コモンズでは「持続可能な開発目標 (SDGs) と循環経済」というテーマを研究活動の指針の一つとして掲げ、多様な分野の研究者による協働研究の活性化を目指しています。本シンポジウムでは、新型コロナウイルス感染症とSDGsの関係性、特に低炭素エネルギー社会への転換に注目した内容で議論します。是非とも、皆さまの積極的な参加をお待ちしています。

## 参加申込み

シンポジウムはオンライン会議形式 (Zoom) で行います。下記サイトへアクセスの上、事前登録をお願いします。折り返し、アドレスとパスワードをご連絡いたします。

[http://commons.kyushu-u.ac.jp/collaborative/event\\_9.html](http://commons.kyushu-u.ac.jp/collaborative/event_9.html) ▶

